

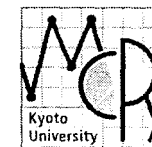
川上 委員 提出

第4回臨床研究専門委員会

資料

平成19年12月13日

6-②



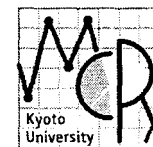
臨床研究医の未来を語る会

プログラム2-1 「MCR卒後の課題」 事前アンケート集計報告

平成19年12月10日

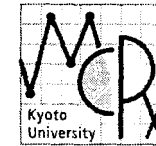
「臨床研究医の未来を語る会」実行委員会
有村保次 西田俊彦 南麻弥

背景



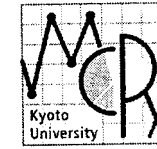
- 平成17年4月臨床研究者養成(MCR)コース開設、現在3期生
- 臨床研究を行う上で、時間がない、研究協力者がいない、研究費がない、データがない等の問題
- 臨床研究を行っていく医師にとってのキャリアパスがない
- 臨床研究を行う人材として期待されるMCR卒業生・在校生が上記の問題に直面

目的



- 主に以下の3つのことを考えることを目的にアンケート調査を行った
 - ①現在の現状は？
 - ②臨床研究への理解・協力を得るために何か行動をされているか否か？
 - ③臨床研究を行う医師の将来像についてどのように考えておられるか？

対象と方法



■ 対象

- ・MCRコース履修者(聴講生を含む)

卒業生 1期 11名

2期 9名

在校生 3期 8名 計28名

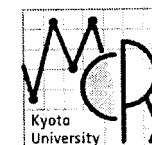
■ 方法

- ・平成19年10月26日～11月16日

電子メールにてアンケート送付・回収

MCRメーリングリストを使用

結果：現状-背景



■ 回収率

	1期	2期	3期	計
	11名	9名	8名	28名
回収	9 (81.8%)	7 (77.8%)	8 (100%)	24 (85.7%)

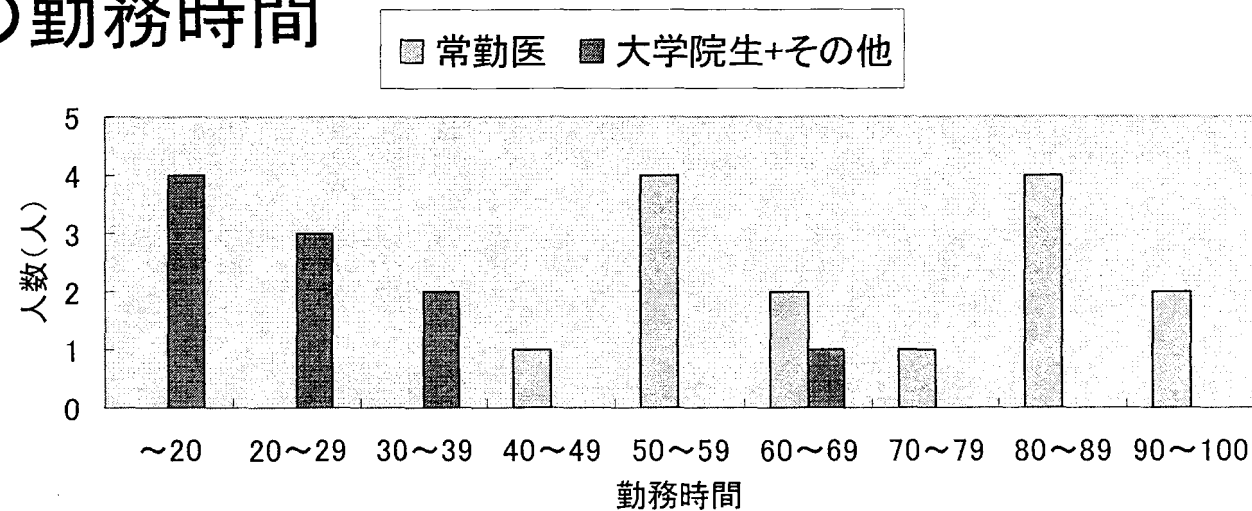
■ 現在の就業・就学状況

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
常勤医				
病院常勤医	3	5	4	12
大学・研究所勤務	1	0	1	2
大学院生	5	1	3	9
その他	0	1	0	1

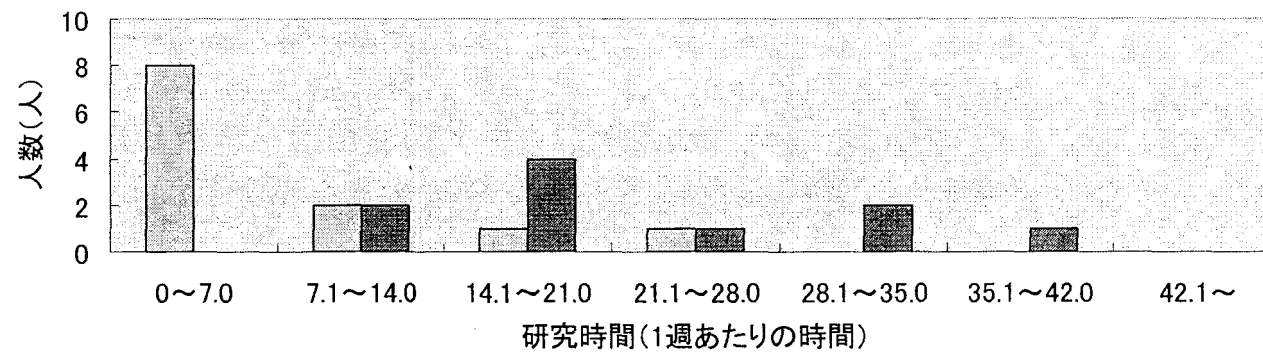
結果：現状-時間



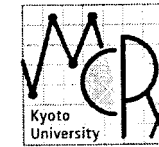
■ 1週あたりの勤務時間



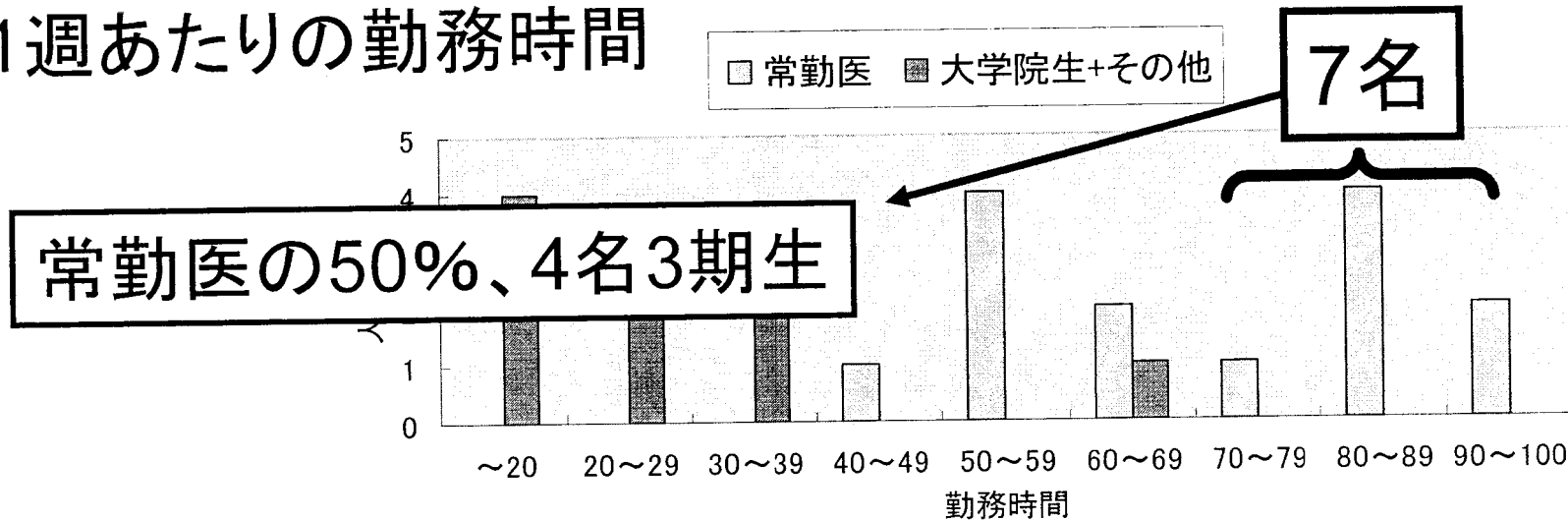
■ 1週あたりの研究時間



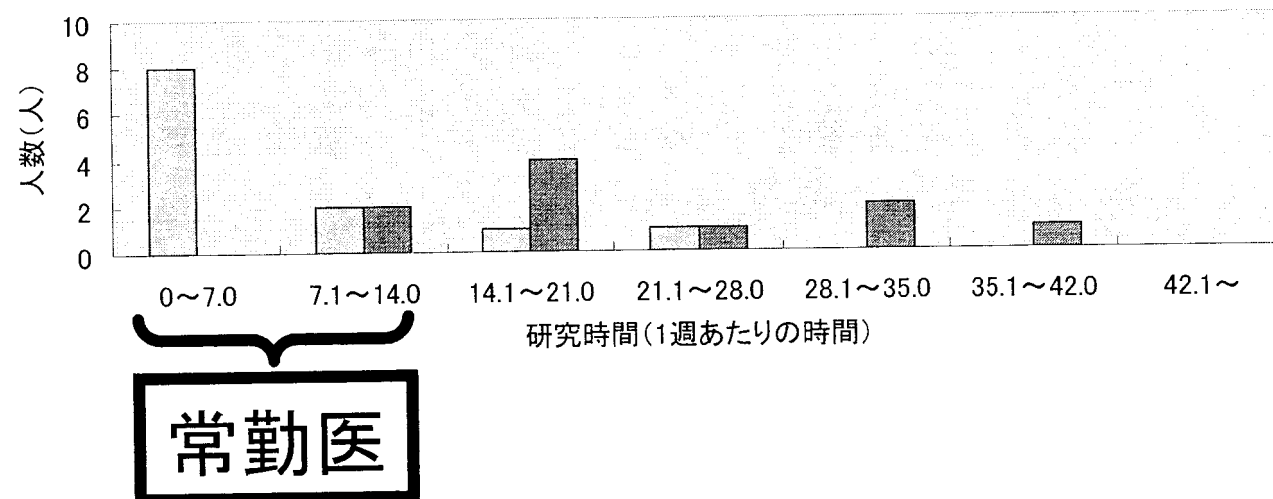
結果：現状-時間



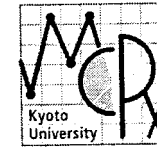
■ 1週あたりの勤務時間



■ 1週あたりの研究時間



研究で困っていること



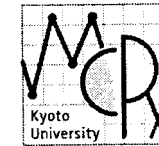
- 臨床研究を行う上で困っていることがありますか？

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
ある	4	7	8	19
ない	5	0	0	5

- 困っていること(複数回答可)

	1期	2期	3期	計
	4名	7名	8名	19名
研究時間	4	7	8	19
周囲の状況	4	6	6	16
研究計画立案	2	1	5	8
データ解析・論文化	2	2	3	7

研究で困っていること



- 臨床研究を行う上で困っていることがありますか？

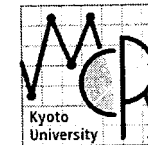
	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
ある	4	7	8	19
ない	5	0	0	5

- 困っていること

時間が足りない 10
効率よく使用できない 7

	1期	2期	3期	計
	4	7	8	19名
研究時間	4	7	8	19
周囲の状況	4	6	6	16
研究計画立案	2	1	5	8
データ解析・論文化	2	2	3	7

研究で困っていること



- 臨床研究を行う上で困っていることがありますか？

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
ある	4	7	8	19
ない	5	0	0	5

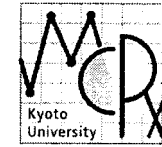
- 困っていること

時間が足りない 10

研究協力者がいない 9 (医師、統計家)
臨床現場に人がたりず、研究どころではない 7

研究時間				
周囲の状況	4	6	6	16
研究計画立案	2	1	5	8
データ解析・論文化	2	2	3	7

研究で困っていること



- 臨床研究を行う上で困っていることがありますか？

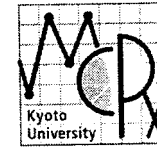
	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
ある	4	7	8	19
ない	5	0	0	5

- 困っていること

	時間が足りない	10	
	研究協力者がいない (医師・統計室)		
臨床現場	必要な研究費を確保できない	4	7
研究時間			
周囲の状況			
研究計画立案	2	1	5
データ解析・論文化	2	2	3

時間が足りない・研究どころでない・協力者がいない
研究費がない

結果：研究の進捗



■ 課題研究の進捗

	1期 9名	2期 7名	3期 8名	計 24名
計画中	0	1	8	9
倫理委員会審査～データ収集	3	2	0	5
データ解析～論文執筆中	4	1	0	5
投稿直前～投稿した	0	1	0	1
アクセプト～発行	0	0	0	0
中断	2	1	0	3
やめた	0	0	0	0
その他	0	1	0	1

※中断段階：倫理委員会通過、投稿した

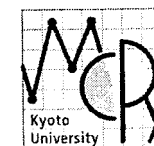
■ 課題研究以外の研究（主任研究者として）

計15研究（7名） 1期 10研究、2期 4研究、3期 1研究

進捗 投稿した 1研究

解析～執筆中 8研究

理解を得るための行動



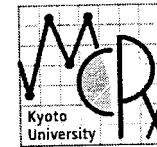
- 職場や周囲に対し、臨床研究を進めるために何か働きかけをされましたか？

・はい・・・20名(83.3%)

個人的な会話レベルで、理解を求める	14
臨床研究に対する一般的な話の機会	12
MCRコースの報告・紹介	12
課題研究についての説明の機会	11
勤務時間や勤務日の配慮の交渉	5
システム構築や、その交渉	5
その他: 大学院選択科目の設立	各1
医療秘書採用	等

(複数回答可)

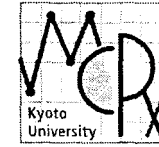
行動に対する反応



■ 働きかけに対する職場や周囲の変化は？

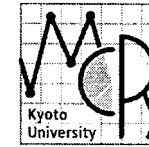
▪ コンサルトを受けるようになった(機会が増えた)	11
▪ 周囲が臨床研究に興味を持ち始めた	10
▪ 定期的な勉強会の開催	5
▪ その他: 臨床研究を行う部門が作られた	各1
研究時間が勤務時間として認められた	
医師の協力者が現れた	
MCR入学希望が現れた	

理解を得るための行動②



- 何か考えているアイデアはありますか？
 - ・ 出前レクチャー
 - ・ 臨床研究に関する研究会への参加を勧める
 - ・ 周囲のスタッフを研究に巻き込む
 - 周囲の人たちが自分たちでもできると感じていただける計画をたてたい
 - ・ 業績を出す
 - 論文投稿、学会発表、院内発表

キャリアパスは？



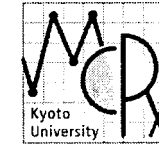
■ 臨床研究を行う意義や動機付けは？（複数可）

・自らの臨床上の疑問に答えるため	18
・日々に臨床に対する意欲向上のため	12
・論文作成し、評価されるため	10
・学位取得のため	8

■ 臨床研究を行う医師のキャリアパスを想像できますか？

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
はい	2	3	5	10
いいえ	5	1	1	7
わからない	2	3	2	7

将来像は？



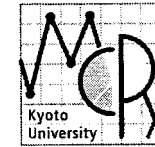
■ 想像できるキャリアパスは？（複数可、n=10）

大学病院以外の病院での臨床研究部門の医師	7
大学病院での臨床研究部門の医師	6
臨床研究を行う機関の研究員	6
大学・大学院の教員	5
大学病院以外の病院での臨床研究を行う臨床医（勤務医）	5
臨床研究も行う開業医	3

■ 10年後の将来像は？

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
大学病院以外の病院で臨床研究を行う臨床医	1	5	7	13
大学・大学院の臨床研究に関わる教員	1	1	0	2
想像がつかない	5	0	1	6

臨床研究が普及するか？



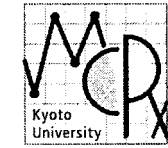
- 日本で臨床医が臨床研究を行っていくことは可能ですか？

	1期	2期	3期	計
	9名	7名	8名	24名
そう思う、まあそう思う	4	3	5	12
どちらともいえない	3	1	1	5
あまり思わない、そうは思わない	2	3	2	7

↓ 5名は常勤医

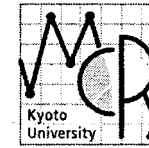
- ・局所的な医師不足は深刻、何かを犠牲にしないと・・・
- ・研究に協力することはボランティア的要素を含む、これに情熱を傾けられる人は少ない
- ・臨床研究のレベルも高くなっており、人的・金銭的資源に乏しい勤務医がある程度の業績を出すのは難しい

まとめ①



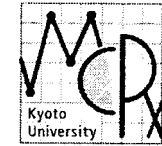
- 厳しい現実に変化はない
 - ・時間がない(研究どころではない)
 - ・協力者がいない
 - ・研究費がない
- 厳しい現状の中、MCR卒業生は課題研究を含め臨床研究を推進していた
- 臨床研究への理解・協力を得るために多くが何らかの行動をされていた
 - 意識の変容は認められつつあったが、環境の変化にまで至っていることは少なかった

まとめ②



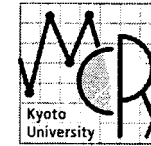
- 臨床研究を行う医師の想像できるキャリアパスは「臨床研究部門の医師、研究員」「大学病院以外の病院で臨床研究を行う臨床医」といった回答が多かった
- 将来像について、「大学病院以外の病院での臨床研究を行う医師」という回答が多かった
 - ・キャリアパスや将来像を想像できないとの回答は1期生に多く、想像できるとの回答は3期生に多かった
- 半数が日本で臨床研究を行っていくことは可能と回答
 - ・あまり思わない、そうは思わないとの回答の7名中5名は常勤医であった

考察



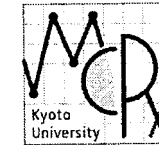
- 厳しい現実（医療環境）の中で、MCR卒業生・在校生の臨床研究を行う困難さを改めて実感
 - 多くが臨床研究を行う臨床医を希望：情熱、意義
 - ※ 卒後のサポート体制の考慮（掲示板、ML等）
- 厳しい状況ながら、研究の推進や周囲に対して積極的な働きかけをされていたが、現状としては病院側（社会？）が臨床研究の意義を認めていない
- 周囲の意識は少なからず変化してきており、業績の発信も含めた地道な努力が、臨床研究の輪を広げ、医療分野での地位向上あるいは臨床研究を行う医師のキャリアパス構築につながるのでは？

おわりに



- お忙しいところ、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

追加：将来行いたい研究



■ 研究テーマ

治療	11
予防	5
診断	3
記述的	3
その他	2

研究デザイン

コホート研究	8
RCT	6
横断研究・記述的研究	5
ケースコントロール研究	2
その他	3

■ 利用したいデータソース（複数回答可）

▪ 多施設の医療機関で収集されたデータ	17
▪ 地域住民から収集された疫学研究データ	14
▪ 政府や、地方自治体などの行政管轄の統計データ	8
▪ 単一の医療機関内で収集された臨床データ	8
▪ 特定の疾患患者の登録コホートデータ	6